

望岳山荘

リレー

リレーコラム

中嶋啓雄

九月十八、十九の両日、由緒あるウィーン市庁舎で開会中の国際会議に出席のため、今、オーストリアに滞在している。今回の会議はシンガポールに本拠を置くアジア・ヨーロッパ財団がオーストリアの中国・東南アジ

ア研究所と共催したもので、そのテーマは「アジアとヨーロッパの家族、社会および国家に対する個人の役割」というユニークなものである。

今日の午前中は「西欧個人主義と儒教文化に対する日本人の対応」と題して私が報告した。この会議の中味については、別の機会に譲ることとして、ここでは会議前後の数日間、オーストリアに滞

在していて気づいたことを書いてみたい。開会の挨拶をしたウィーン市長によれば、ウィーンは財政難の中でも、この美しい都市



をいかに保持してゆくに大いに努力しているという。それらの努力は、ホテルでの扱いにも表われているのが印象的だった。私の宿

泊したホテルは四ツ星のホテルなのに、固型の石鹸が置いてない。石鹸は洗面所にもバス

駄をはぶいているのだが、これらの措置も資源の保護と公害防止のためだとさりげなく書いてある。同様にタオル類も使った分だけ交

換すると書いてあった。これらは、些細なことのようなだが、日本のホテルのように石鹸もタオルも一寸使っただけで交換することに

比べれば、いかに有益なことか。こうしてオーストリアの国民は、皆が環境の保全と美化に協力しているように思われる。

ウィーンで感じたこと

一方、今回、ウィーンとその郊外に滞在してみて、どこへ行って

もトイレが本当に清潔であることに改めて感心した。公園やドライブインの公衆トイレもまったく臭いがないばかりか、とても綺麗な

りもずっと裕福であるが、生活環境という点ではまだまだ後進的だと言わざるを得ない。日本中がオーストリアのようになるには、なお道は遠いように思われるので、せめて国際都市を目指す松本市だけでも、ウィーンのようになれないものかと感じたのであった。

(東京外国語大学長 松本市出身)